



戊辰戦争で活躍した鳥取藩二十二士のひとり河田左久馬の錦絵(個人蔵)

企画展 10月5日(土)～11月10日(日)

2 ファインバーグ・コレクション展 ー江戸絵画の奇跡ー

企画展 11月23日(土・祝)～12月23日(月・祝)

2 鳥取藩二十二士と明治維新

企画展 2014年1月11日(土)～2月14日(金)

3 シリーズ鳥取の表現者 File.05 [Variations ー 絵画の多様性 ー]

3 シリーズ「学校と博物館をつなぐ」①社会科編

博物館資料を用いた「思考力・判断力・表現力」をつける授業モデル

4 [自然] コラム 生物多様性の保全と博物館

5 [人文] 資料紹介 家形埴輪

コラム 調査活動の中から

6 [美術] 新収蔵品紹介 湯村光《響き合うかたち》

企画展 没後50年 菅楯彦展 2014年2月22日(土)～4月6日(日)

7 [山陰海岸学習館だより] フィールドで大地を学ぶ

8 講座・観察会・毎週土曜はアートの日!

企画展 10月5日(土)～11月10日(日)

ファインバーグ・コレクション展 —江戸絵画の奇跡—

「ファインバーグ・コレクション展」と聞くと、「西洋絵画の展覧会?」あるいは「ファインバーグさんというアーティストの展覧会?」と思われる方もあるかもしれません。しかし、サブタイトルの「江戸絵画の奇跡」にもあるように、来る10月5日から当館ではじまるファインバーグ・コレクション展は、アメリカの著名な美術コレクターであるベッツィー&ロバート・ファインバーグ夫妻が蒐集した、江戸時代の優れた日本絵画を紹介する展覧会です。

明治維新の時期、そして第二次世界大戦の終結後を中心に、膨大な数の日本の古美術品が海を渡りました。欧米の芸術家やコレクター、美術館関係者の多くが、西洋の美術とは異なる独特の美意識に裏打ちされた作品から刺激を受け、展示や出版など様々なかたちで日本の美術が紹介されるようになりました。このような

環境のなかで、幾人もの熱心な日本美術愛好家が育っていきます。1972年にニューヨークのメトロポリタン美術館で開催された南蛮屏風展で日本美術の世界に開眼し、以来40年もの時間をかけて優れたコレクションをつくりあげたファインバーグ夫妻は、そのなかでも眼力の高いコレクターとして評価されています。

本展は、その質の高いコレクションをまとめてじっくりとご覧いただけるまたとない機会です。紹介するのは、俵屋宗達(=写真)から酒井抱一、与謝蕪村、円山応挙、伊藤若冲、曾我蕭白、そして葛飾北斎など、江戸時代の有名な画家の作品が中心です。優れた美術品は洋の東西を問わず、人々のこころを打つものなのだと思われたいと思います。

(美術振興課 三浦 努)

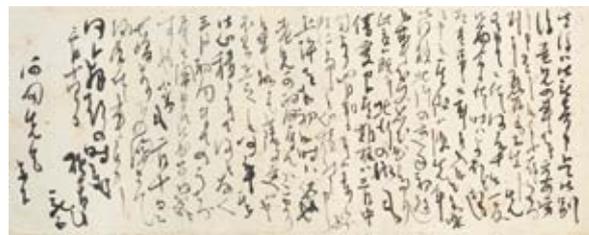


俵屋宗達《虎図》江戸時代/17世紀
ファインバーグ・コレクション

企画展 11月23日(土・祝)～12月23日(月・祝)

鳥取藩二十二士と明治維新

2013年は、幕末日本に衝撃を与えたペリー来航から160年、鳥取藩を揺るがした「本圀寺事件」から150年という節目の年にあたります。「本圀寺事件」とは1863(文久3)年8月17日に、河田左久馬ら22人の鳥取藩士が、藩主側近を京都の本圀寺において斬殺した事件のことを指します。事件後に1人が切腹し、1人が行方不明となったことから、彼らは「二十士」とも呼ばれます。その処遇をめぐ



坂本龍馬書状(河田左久馬宛)部分(個人蔵)

って藩内の対立は深まり、不安定な要因を抱えたまま鳥取藩は明治維新を迎えました。

この展覧会では、重臣が斬殺されるという鳥取藩政にとって未曾有の大事件はなぜ起こったのか、その背景や与えた影響を幕末鳥取藩の動向から考えてみたいと思います。あわせて激動の時代にあって信念を貫き活動した人びとの軌跡を、「鳥取藩二十士」を中心にしながら第一級資料

によって紹介します。

右上の写真は、水戸藩で行われた大規模な軍事演習のために作られた陣太鼓です。幕末の鳥取藩は、二十士のひとり加須屋右馬允を水戸に砲術留学させるなど、



写真提供 水戸市教育委員会
陣太鼓(台車)水戸市指定文化財(水戸八幡宮蔵)

水戸藩をモデルとした藩政改革を進めました。また左下の写真は、坂本龍馬が慶応3年(1867)に二十士のひとり河田左久馬に送った手紙で、一般公開されるのは約20年ぶりです。さらに坂本龍馬関係資料(国重文・京都国立博物館蔵)を山陰地方では初めて出品するほか、水戸藩主徳川斉昭の肖像(林原美術館蔵)や勝海舟の書状(個人蔵)などの資料を初公開します。

展覧会を通じて明治維新という時代の息吹と、人びとの熱気を感じとっていただければ幸いです。

(学芸課 来見田 博基)

シリーズ鳥取の表現者 File.05 「Variations – 絵画の多様性 –」

鳥取県立博物館では2009年より、鳥取県にゆかりのある作家の仕事を紹介する「鳥取の表現者」というシリーズの展覧会を継続的に開催しています。5回目となる今回は初めてグループ展の形式をとり、若手画家4人の作品を紹介します。

今日、主題においても、表現や技法においても絵画は多様な姿をとりまします。さらに昨今の映像技術の発達にもなつて絵画というジャンルの意味自体も問い直されています。今回の展示では鳥取県出身の4人の画家の作品を通して現代の絵画の Cutting Edge に触れていただきたいと思います。

出品する作家のうち、山下律子と山田和之は具象的なモチーフを用いた寓意性の強い作品を制作する点で共

通します。しかし色彩を強調しながらペインターリーな絵画を描く山田と、ニードルでスクラッチした画面を彩色して線描のイメージを浮かび上がらせる山下の作品の印象は大きく異なります。一方、秦博志と安木洋平はともに抽象表現を用いますが、ストロークを用いて線によって画面を構築する秦と、人体から出発しながら最終的に面的な抽象表現へと到達した安木の画面も大きな隔たりを示します。

具象と抽象、線的と面的、あるいは奔放と構築、この展覧会では出品された作品に何らかの傾向や共通性を求めるのではなく、むしろ「絵画の多様性」をキーワードとして、今日の絵画表現を追求する画家たちの仕事を紹介します。

出品作家はいずれも30代から40代の実力のある画家ばかりです。これまで県外での発表が多かったこともあり、県内では比較的なじみのない画家も多いですが、この機会に現代の絵画の多様な挑戦に触れていただきたいと思います。

(美術振興課 尾崎 信一郎)



安木洋平《赤の中の黒》2012年

シリーズ「学校と博物館をつなぐ」①社会科編

博物館資料を用いた「思考力・判断力・表現力」をつける授業モデル

『学習指導要領(中学校社会科)』は、「身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる」ことを歴史的分野の目標の1つとしています。

こうした歴史資料を「多面的・多角的に考察し公正に判断」して「適切に表現」する「能力」・「態度」の育成には、博物館の歴史展示を活用した「研究体験」が有効と考えます。以下、当館所蔵の「伯爵国東郷庄下地中分図」(複製、以下「中分図」)を用いた、中学校の「地域の歴史調査」の授業モデルを紹介します。

【授業のねらい】

絵図に描き込まれた事物(「東郷」,「北条」などの地名、天神川の河道、海上の帆船など)を考察し、身近な地域の歴史を発見する。

【導入】

「中分図」画像を掲示(or投影)し、「鎌倉時代に領家(貴族)と地頭(武士)が荘園を分割し、その境界線を記した絵図」であることを簡単に説明する。
(『中学歴史』では「武士の荘園侵略」は紹介されないため、教科書に「中分図」は載せられていないが、補助教材の『鳥取県中学歴史資料』には紹介されている)。

【展開】(以下、「活動」:生徒の活動、「目的」:指導目的)
〈課題の発見〉

(活動)「中分図」に描かれている事物の中で教科書や資料で説明されていないものを3つ以上見つける。

(目的)「中分図」に多くの事物・情報が描かれていることに気づかせる。

〈調査〉

(活動)見つけた中で「人に教えたい」ものを1つ選び、調べる。

(目的)仮説を立てさせ、収集した情報から推論させる。

(留意点)地名辞典、自治体誌などの書籍、地図などの調査用資料を提示する。可能であれば実地調査、博物館見学を行う。

〈表現〉

(活動)調査結果をカード(見出しと100字程度の説明文)にまとめる。

(目的)他者に分かりやすく、簡潔に伝える方法を考えさせる。

【まとめ】(発表・意見交換)

(活動)カードを「中分図」の該当箇所に貼り付け、互いに質疑応答する。

(目的)質疑応答を通じて、自らの解釈や説明を評価させる。

博物館では、鳥取県内の歴史に関わる資料や情報を収集しています。これまで学校の博物館での「体験活動」は、「見る」・「触る」・「使う」ことが中心でしたが、今後は「研究体験」の場として活用していただければと思います。

(学芸課 石田 敏紀)

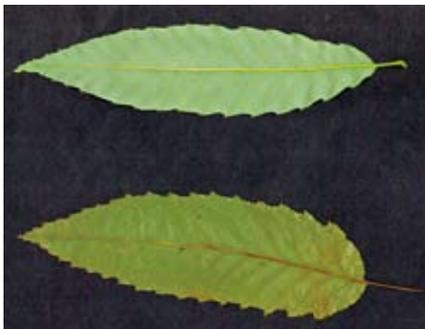
生物多様性の保全と博物館

「生物多様性」は生物多様性条約という国際条約の中で次の3つの項目で定義されています。

- ①生態系の多様性:干潟、サンゴ礁、里地里山などのいろいろなタイプの自然があること。
- ②種の多様性:大きな動植物から細菌などの微生物に至るまで、様々な生き物がいること。
- ③遺伝子の多様性:アサリの貝がらの模様が千差万別なように、同じ種の中にさまざまな個性があること。

つまり、長い年月の中で、それぞれの地域の環境に育まれた生物の集団こそが生物多様性の本質といえます。そして、私たちを含むすべての生きものが生物多様性の中で複雑にかかわり合いながら、今日まで命を永らえてきた歴史があります。その関係はこれからも変わるものではありません。生物多様性の保全は私たちの命や未来に関わる問題なのです。

本年5月に第64回全国植樹祭がとっとり花回廊などを中心に開催されました。その植樹祭に「とうほくとっとり・森の里親プロジェクト」という活動が含まれていたのをご存知でしょうか。東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島で採取したコナ



アベマキの葉の裏面(上)
山形県以南~九州の丘陵、山地に生育する。鳥取県内の里山にも広く分布する。葉の裏は灰白色。

クスギの葉の裏面(下)
クスギは岩手県・山形県以南の本州・四国・九州に広く分布する落葉高木。鳥取県には少なく、薪炭用などのために植栽されたものと考えられる。

ラ、ミズナラ、ケヤキなどの種子を預かり、鳥取県内の小学校などで育てます。その後、育てた苗木を各県に里帰りさせ、海岸防災林の再生に役立てるというプロジェクトです。コナラ、ミズナラ、ケヤキは鳥取県にも多く自生する樹種です。鳥取産の種子や苗木を提供すれば、もっと簡単に再生事業が進みそうですが、そうしないのはなぜでしょう。

それは、このプロジェクトでは樹種は同じでも地域によって遺伝子が違うことを認識して、地域の遺伝子を守っていく配慮がなされていたのです。

自然の復元や再生には7つの条件があるとされています。

- ①今ある自然を大切にする
- ②特定の種だけでなく、生物のつながりや生態系全体を復元する。
- ③よその土地の種でなく、もともとあった種を回復する。
- ④点の回復ではなく、空間的な生態系のネットワークを回復する。
- ⑤人間が作り上げてしまうのではなく、自然の回復力を助ける。
- ⑥自然の変化をモニタリングしながら、順応的な管理を実施する。
- ⑦行政だけで進めず、計画段階から積極的に地域の市民参加を図る。

しかし、このような自然への配慮や考え方は、まだ十分に浸透していない現状も見受けられます。たとえば、里山保全を目的にした鳥取県内での植林活動に一律にクスギが使われることがあります。里山について記述した多くの書籍に「里山」=「コナラ」+「クスギ」とあたかも数学の公式のように紹介され、多くの植林が繰り返されてきました。ところが、この公式が成り立つのは関東地方な

どの話です。鳥取県内ではクスギはほとんどなく、よく似たアベマキの方がはるかに多いのです。苗を購入してのクスギの植樹は結果的にはその土地にない樹種や遺伝子を持ち込むこととなります。

平成23年11月に鳥取県が行った「環境保全活動を考える集い」の植樹活動ではきちんと、地元産のアベマキの苗が使われていました。もちろん、植樹ボランティアの方々にもその意図について説明がありました。保全活動は一律ではなく、地域の自然の理解が欠かせないことを心地よい汗とともに体感されたことでしょう。一方で、自然林の再生では植樹にたよらず環境に合わせて生えてくる樹木を上手に使うことも大切とされています。

保全の方法は一律ではありません。ですから、今ある自然に手を入れる環境保全活動を計画するときは、専門機関との連携が大切とされています。よかれと思った行為で自然が壊れては泣くに泣けません。規模の大きなものや希少種、絶滅危惧種が保全の対象に含まれるときにはなおさらです。

県立博物館では鳥取県のどこにどのような動植物が暮らしているのかを標本をとおして明らかにしていく活動を続けています。いわば動植物の住民基本台帳づくりです。館内の収蔵庫は10万点近い昆虫や動物、植物の標本であふれかえっていますが、まだ十分な数ではありません。博物館は生物多様性保全に関わる専門機関のうち、唯一標本資料を保存する機関です。これらの資料を生かして、鳥取県内各地域の生物相や生物多様性を把握し、その保全に向けて適切な情報発信をしたいと考えています。

(学芸課 清末 幸久)

家形埴輪(米子市淀江町上ノ山古墳出土)

屋根のある建物の埴輪「家形埴輪」(写真)は、最も重要な埴輪の一つでした。埴輪の中で最も早く古墳時代前期中頃(4世紀前半)には出現し、後期後葉(6世紀末)まで製作されます。通常は壁・柱がある建物を表現し、竪穴住居は稀であり、しかも角柱の表現が大半で円柱はごく少数です。建物を表現した造形物として、当時の建物を復元する根拠とされてきました。

しかし、結論から言うと、家形埴輪は当時の実在の建物を厳密に象ったものではないと考えられます。たとえば、古墳時代集落の発掘調査で見つかるのは竪穴建物が一般的で、壁のある建物は限られた存在です。柱の跡は通常円形であり、角柱は非常に稀です。さらに、家形埴輪は柱間を2~3間



米子市上ノ山古墳出土家形埴輪

とするのが大半で、大型にする場合は壁の幅や柱の太さを変えることで対応するのですが、遺構では大型になればなるほど柱間を増やします。つまり、実際の建物跡やそこから復元される建物と、家形埴輪の構造はあまり一致

しないのです。

この家形埴輪でも、正面に縦長の「入口」と横長の「窓」が切り抜かれますが、壁に加えて柱があるべき部分にも矢羽根状の「綾杉文」が、しかも横だけでなく縦方向にも線刻されています。また、上屋根の中央付近にも横方向の押縁突帯をつける点も、実際にはあまり意味がない構造なのです。

一見すると、どこにでもありそうな家形埴輪なのですが、よく見ると変わった点が多くあります。こうした検討を重ねることで、どのようにして、また何のために家形埴輪を製作していたのか、その一端に迫ることができるのです。

(学芸課 東方 仁史)

コラム

調査活動の中から

当館では、「鳥取県の歴史・民俗事象調査事業」を行っています。これは、県民に郷土の歴史・文化に対する理解を深めていただくため、鳥取県内の特徴的な歴史民俗事象を調査し、その成果を展示紹介するもので、去年と今年

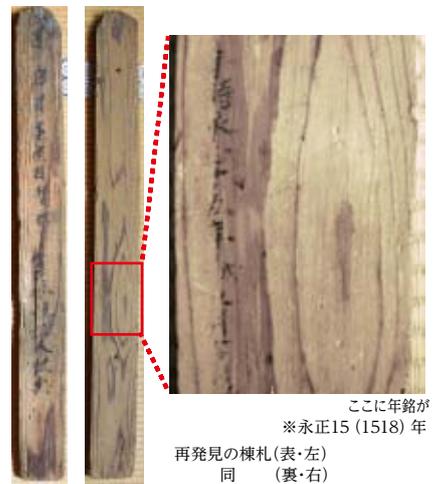
は、「神社の棟札」を対象としています。「棟札」というものを御存知でしょうか。辞典には「建物の由緒、建築主(施主、願主)、工事年月日、工事担当者(工匠等)などを記して、上棟式の時に棟木などに打付けた板」とあります。神社の棟札は、本殿に収められていることが多く、なかなか目にする機会は多くありません。それだけに、この調査では、県内に少ない中世から戦国時代の資料が発掘される成果を期待していました。

実際に、ある神社の棟札を拝見していたときのエピソードです。予め調べてきた文献では、この神社には永正年間の棟札が伝わっていると紹介されて

いました。事前にとっている県全域のアンケート調査集計では、最も古い棟札から数えて4番目に当たります。

第1回の調査では、約70点の棟札資料について、長さや厚さなど寸法を計ったり、写真撮影をしました。この日、拝見した最も古いものは、寛文元(1661)年のもの。最も新しいもので平成6年でした。調査成果に満足して終了し、宮司さんへ、是非とも永正年間の棟札を探して下さいようお願いして帰りました。

およそ一月たったある日、宮司さんから「江戸時代のものだが、数点の棟札が新たに出てきた。」と連絡があり、再び訪ねました。最初にすでに御用意していただいていた江戸時代の棟札を拝見していると、宮司さんが「これはなんで神社に卒塔婆が伝わっているのか、不思議なことだなあ」と持ってこられた板を見て、私は目を丸くしました。片面に梵字(サンスクリット語)数



ここに年銘が
※永正15(1518)年
再発見の棟札(表・左)
同 (裏・右)

文字と「當所安穩諸人快樂」と書いてあり、反対面にはほとんどかすれた文字ですが「于時永正十五年戊(寅)月」の文字が。実はこれこそ、存在が知られていた永正年銘のある棟札でした。文献には、年銘のみが記載されており(寸法や梵字銘は紹介されていない)、特定が難しかったことと、卒塔婆に思えたのも無理もない形状をしていたのが原因で、なかなか特定が難しかったのです。室町時代の神仏習合が顕著な「お宝」再発見に立ち合った貴重な体験でした。(学芸課 福代 宏)

湯村光《響き合うかたち》

鳥取県東伯郡東郷町（現・湯梨浜町）出身の彫刻家・湯村光（ゆむら・ひかる 1948～）。御影石などを使った抽象的でモニュメンタルな作風で知られる彼の石彫作品は、鳥取県中部の公共的な場所を中心に、野外彫刻の設置に積極的な日本各地の公共施設や美術館などで見ることができます。彫刻の紹介にも力を入れている当館では、平成24年度、《響き合うかたち》という題名が付された湯村の三連作を収蔵しました。

東京芸術大学彫刻科卒業以降に湯村が制作してきた石彫作品の最大の特徴は、あたかも強大な力が石に加わって「ずれ」が生じたかのよう



（参考図版）
《海へのメッセージ》1990年、石
東郷湖羽台臨海公園

に見えるフォルムが、多彩なバリエーションで造形されているという点にあります（＝参考図版）。その制作手順を簡単に紹介すると、大きめの石をまず割って、その際に生じる偶然生まれた「割れっぱなしの、自然な粗目の面」を残しながら、鏡面のように徹底的に磨き上げた「人工的で、意図的な面」を作り、最後に、元の割れ目の部分でぴったりと組み合わせ、二種類の面をもった作品を完成させるというものです。実際には硬い石が、引き裂くような力を受けて「ぐにゃり」とねじ曲がったり、バラバラに分解されていくように「見える」。その力は外部から加わったのか、或いは石の内部から生じたのか。じっと見つめているとそのどちらもありそうに見えてくる、不可思議でトリ



《響き合うかたちI》
2011年、石、65.0×65.0×25.0cm



《響き合うかたちIII》
2011年、石、65.0×65.0×26.0cm

ッキーな要素を含むユニークな造形論が湯村作品には展開されています。

今回収蔵した《響き合うかたち》は、ほぼ同寸法の黒御影石に3つの段階で「割れ」が生じているさまを三連作として制作したものです。公共彫刻などの大作に比べればインパクトは欠けるのですが、湯村が培ってきた造形論を端的に、コンパクトに示す秀作といえるでしょう。

（美術振興課 三浦 努）

企 画 展 2014年2月22日(土)～4月6日(日)

没後50年 菅楯彦展

本年は日本画家・菅楯彦（すが・たてひこ 1878～1963）の没後50年の節目の年にあたります。当館では、平成26年2月22日から4月6日の日程で、楯彦の画業を顧みる回顧展を開催します。

四条派の画家・菅盛南の長男として鳥取市に生まれた楯彦は、幼くして家族とともに大阪に移住しますが、11歳の時に父が病に倒れたため、小学校を中退し襖絵などの制作に従事するようになりました。その後も特定の画家に師事することなく、父から手解きを受けたほかは、独学で絵巻物などから日本画を学びました。弟子の生田花朝が「先生の芸術の自由な点は、全く師伝といふものに依らず先生自身の創作なので、先生より外には、あの芸術は誰ももっていないわけです」と記しているように、楯彦の描く絵画は四条派の写生体を基調に復古大和絵調の色彩を施した軽妙

洒脱な表現であり、他の日本画家の作品とは一線を画しているといえます。

もともと、楯彦は絵画制作の傍ら、漢学や国学、有職故実を、在阪の学者に師事して修めるとともに、四天王寺の舞楽をこよなく愛し、自らも楽箏に参加していました。そのため、楯彦の描く絵画は、どこか文人氣質ともいべき軽妙洒脱な表現になっています。なかでも楯彦が得意としたのは、消えゆく古き良き江戸時代の面影をのこす大阪庶民の生活を温かく表現した浪速風俗画でした。浪速情緒を色濃く表現した作品群は楯彦の代名詞といえるでしょう。

また、楯彦は狩野派や大和絵をはじめとする古画や古美術の研究にも取り組み、木村兼葎堂を顕彰する祭りを催すなど、単に画家としてのみならず、20世紀大阪の文化向上に貢献しました。昭和33年に日本画家とし



菅楯彦《舞楽(萬歳楽)》絹本着色、当館蔵

て初めて日本芸術院恩賜賞を受賞し、37年には大阪市名誉市民に選ばれました。

しかし戦後の急速な西洋化において、楯彦の作品の背後に見られる皇国史観が敬遠されるようになったことも影響し、今日では楯彦の名前は忘れられつつあり、正当な評価もなされていない状況にあるといえます。この度の展覧会では、楯彦の画業はもとより大阪をはじめとする関西および郷里鳥取の社会における楯彦像を浮き彫りにし、その足跡を再検証することを目的としています。

（美術振興課 林野 雅人）

フィールドで大地を学ぶ

実物に触れ、本物に接することは多くの学びをもたらします。これは理科の学習で大地について学ぶ場合でも同じです。野外に出かけ、実際の大地に触れて学ぶことにより、さらに多くのことを知ることができます。

山陰海岸学習館には山陰海岸ジオパークの貴重な地形・地質などについての様々な展示があり、日本海形成の歴史や山陰海岸の大地の成り立ちについて学ぶことができます。さらに山陰海岸ジオパークのフィールドに実際に足を運び、素晴らしい景観を見て、現地で地形や地質についての解説を聞いたり、観察をしたりすることができます。大地の成り立ちについての理解を深め、大地への興味関心をより高めることができます。大地そのものがすばらしい教科書なのです。

山陰海岸学習館の位置する浦富海岸一帯には花こう岩が分布しています。この花こう岩は約6,000万年前の昔に地下深くにあったマグマが固まってできた岩石で、長い年月を経て地表に現れたものです。地表に現れた花こう岩は日本海の荒波に削られ、岬や入り江、大小の島々が入り組んだ海岸線を形成しました。また、浦富海岸一帯は海食崖や海食洞、海食洞門、波食棚、波食窪などの海食地形の宝庫でもあります。

校外学習の一貫で小学生や中学生を浦富海岸に案内する機会があります。波で削られた様々な地形を観察した後で、入り江にある砂浜で花こう岩の礫や砂を観察します。花こう岩の礫の表面にはところどころに小さな穴があり、子ども達はそれが風化に強い石英などの粒が抜け落ちた穴であることを知ります。また、それらの粒がたくさん集まり、砂浜を形成することを聞いた後、実際に砂を観察します。ルーペで砂粒を観察し、砂粒の中に透明な石英があることを見いだした子ども達から、「きれい」という感嘆の声がこぼれます。フィールドで学習することで、子ども達の脳裏には学校で学習するよりも何十倍も多くのことが蓄積されていきます。

山陰海岸学習館の展示を通して大地の学習を行うと

ともに、フィールドに出て、大地の中で解説を聞き、地形や地質を観察することでより充実した学習をすることができます。山陰海岸学習館ではそのような学校教育の支援をしております。ぜひ貴重な地形・地質の宝庫である山陰海岸ジオパークの魅力を現地で体感しながら、大地について学んでいただきたいです。



鴨ヶ磯(浦富海岸)での中学生の学習の様子

(山陰海岸学習館 山田 佳範)

■ 普及活動一覧(平成25年度下半期)

《野外観察会》

魚の赤ちゃん調べ ～秋の地曳網調査体験～

10月13日(日)午前9時～正午

場所/熊井浜(岩美町)

対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴)

定員:30名(先着順)

申込開始:9月29日(日)～、電話のみ

《野外観察会》

山陰海岸ジオハイキング ～浦富海岸西コース～

10月20日(日)午前10時～午後2時

場所/網代～鴨ヶ磯(岩美町)

対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴)

定員:30名(先着順)

申込開始:10月6日(日)～、電話のみ

※申込、問合せは山陰海岸学習館(電話:0857-73-1445)へ

鳥取県立博物館付属

山陰海岸学習館

San'in Kaigan Nature Museum



■入館料:無料

■開館時間:9時～17時

■休館日:毎週月曜日

(祝日の場合は翌平日が休館日)

国民の祝日の翌日(土、日、祝日は開館)

年末年始(12月29日～1月3日)

【お問い合わせ】〒681-0001

鳥取県岩美郡岩美町牧谷1794-4

電話:0857-73-1445

FAX:0857-73-1446

<http://site5.tori-info.co.jp/museum/gakusyukan/>



INFORMATION お知らせ

講座・観覧会・毎週土曜はアートの日! LECTURE・FIELD STUDY・EVENT

■自然部門 ■歴史・民俗部門 ■美術部門(毎週土曜はアートの日)

2013 10 OCT.	《ギャラリートーク》 フィンバグ展	■10月5日(土) 14:00~15:00/企画展会場 ■中学生~一般/定員なし/要観覧料
	《歴史講座》 因幡守在原行平と因幡介春道永蔵	■10月6日(日) 14:00~15:30/講堂 ■一般/250名/無料
	《野外観覧会》 おちばの中のモンスターをさがそう!	■10月12日(土) 13:00~16:00/湖山池青島(鳥取市) ■幼児~一般(小学生以下は保護者同伴)/20名/無料 ※申込受付:9月26日(木)~(電話のみ)
2013 11 NOV.	《アートシアター》 新・日曜美術館シリーズ「与謝蕪村」	■10月12日(土) 14:00~15:00/講堂 ■中学生~一般/250名/無料
	《ワークショップ》 ミニ掛け軸をつくろう	■10月19日(土) 14:00~16:00/会議室 ■小学生~一般/20名/150円(絵はがき代) ※申込受付:10月5日(土)~(電話のみ)
	《野外観覧会》 きのこを調べる会	■10月20日(日) 10:00~14:00/打吹公園(倉吉市) ■一般/50名/無料 講師 日本きのこセンター菌茸研究所 長澤栄史氏 ※申込受付:10月3日(木)~(電話のみ)
2013 12 DEC.	《歴史講座》 拓本を採る	■10月20日(日) 13:30~15:30/会議室 ■小学校高学年~一般/20名/100円 ※申込受付:9月20日(金)~(電話のみ)
	《アートシアター》 新・日曜美術館シリーズ「円山応挙」	■10月26日(土) 14:00~15:00/講堂 ■中学生~一般/250名/無料
	《特別講演会》 フィンバグ展関連 講師 小林忠氏	■11月2日(土) 14:00~15:30/講堂 ■高校生~一般/250名/不要
2014 1 JAN.	《野外観覧会》 化石をさがせ!	■11月3日(日) 10:00~15:00/土地(鳥取市国府町) ■小学校高学年~一般(小学生は保護者同伴)/20名/無料 ※申込受付:10月17日(木)~(電話のみ)
	《ギャラリートーク》 フィンバグ展	■11月9日(土) 14:00~15:00/企画展会場 ■中学生~一般/定員なし/要観覧料
	《スペシャルアートシアター》会田誠ドキュメンタリー映画 「駄作の中にだけ俺がいる」	■11月16日(土) 14:00~15:50/講堂 ■大学生~一般/250名/無料
2014 2 FEB.	《野外観覧会》 ひつつき虫であそぼう!	■11月17日(日) 10:00~12:00/鳥取県立博物館周遊(鳥取市) ■幼児~一般(小学生以下は保護者同伴)/20名/無料 ※申込受付:10月31日(木)~(電話のみ)
	《講演会》 宇倍神社経塚出土「金字経」について	■11月17日(日) 14:00~15:30/講堂 ■一般/250名/無料
	《ワークショップ》 木でつくろう	■11月23日(土) 13:00~17:00/会議室 ■高校生~一般/10名/1000円 ※申込受付:11月9日(土)~(電話のみ)
2014 3 MAR.	《幕末・維新鳥取藩を読み解く連続講座》 ①鳥取藩諸隊・新国隊をめぐる諸問題	■11月24日(日) 14:00~15:30/講堂 ■一般/250名/無料 ※企画展「鳥取藩二十土と明治維新」関連
	《野外観覧会》 はじめてのバードウォッチング	■11月30日(土) 9:00~12:00/湖山池青島(鳥取市) ■幼児~一般(小学生以下は保護者同伴)/20名/無料 ※申込受付:11月14日(木)~(電話のみ)
	《ギャラリートーク》 コレクション展IVについて	■11月30日(土) 14:00~15:00/美術展示室 ■高校生~一般/定員なし/要観覧料
2014 4 APR.	《幕末・維新鳥取藩を読み解く連続講座》 ②幕末政治と鳥取藩	■12月1日(日) 14:00~15:30/講堂 ■一般/250名/無料 ※企画展「鳥取藩二十土と明治維新」関連
	《アートシアター》[VHS]現代建築家シリーズ 「ピーター・アイゼンマン」	■12月7日(土) 14:00~15:10/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《特別講演会》 幕長戦争と鳥取藩	■12月8日(日) 14:00~15:30/講堂 ■一般/250名/無料 ※企画展「鳥取藩二十土と明治維新」関連
2014 5 MAY.	《アートシアター》[VHS]現代建築家シリーズ 「6人のヨーロッパの建築家」	■12月14日(土) 14:00~15:10/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《民俗講座》 鳥取県の民話を聞く会	■12月15日(日)または22日(日) 14:00~15:00/歴史民俗常設展示室 ■一般/30名/入館料

2013 12 DEC.	《幕末・維新鳥取藩を読み解く連続講座》 ③鳥取藩池田家の江戸湾警備	■12月15日(日) 14:00~15:30/講堂 ■一般/250名/無料 ※企画展「鳥取藩二十土と明治維新」関連
	《ワークショップ》 墨で描く	■12月21日(土) 14:00~16:00/会議室 ■小学生~一般/20名/無料 ※申込受付12月7日(土)~(電話のみ)
	《幕末・維新鳥取藩を読み解く連続講座》 ④鳥取の寺社からみた幕末・維新	■12月22日(日) 14:00~15:30/講堂 ■一般/250名/無料 ※企画展「鳥取藩二十土と明治維新」関連
2014 1 JAN.	《民俗講座》 しめ飾りを作ろう!	■12月23日(祝・月) 13:00~16:00/会議室 ■一般/20名/無料 ※要申込(電話のみ、先着順)
	《アーティストトーク》 Variations - 絵画の多様性展 -	■1月11日(土) 14:00~15:30/企画展会場 ■高校生~一般/定員なし/要観覧料
	《ギャラリートーク》 Variations - 絵画の多様性展 -	■1月18日(土) 14:00~15:00/企画展会場 ■高校生~一般/定員なし/要観覧料
2014 2 FEB.	《歴史講座》近代資料を読む 一 鉄道の誘致・建設 (2回連続)	■1月19日(日)・2月2日(日) 14:00~15:30/会議室 ■一般/20名/無料 ※要申込(電話のみ、先着順)
	《スペシャルアートシアター》デレク・ジャーマン監督作品 「ヴィトゲンシュタイン」	■1月25日(土) 14:00~15:20/講堂 ■大学生~一般/250名/無料
	《講演会》 11代将軍徳川家斉と鳥取藩主池田家	■1月26日(日) 14:00~15:30/講堂 ■一般/250名/無料
2014 3 MAR.	《アーティストトーク》 Variations - 絵画の多様性展 -	■2月1日(土) 14:00~15:30/企画展会場 ■高校生~一般/定員なし/要観覧料
	《アートセミナー》 「絵画の嵐・具体美術協会について」	■2月8日(土) 14:00~15:30/会議室 ■高校生~一般/定員なし/無料
	《歴史講座》 古文書を楽しむ(2回連続)	■2月9日(日)・16日(日) 14:00~15:30/会議室 ■一般/20名/無料 ※要申込み(電話のみ、先着順)
2014 4 APR.	《ギャラリートーク》 コレクション展Vについて	■2月15日(土) 14:00~15:00/美術展示室 ■高校生~一般/定員なし/要観覧料
	《ギャラリートーク》 菅橋彦展	■2月22日(土) 14:00~15:00/企画展会場 ■高校生~一般/定員なし/要観覧料
	《民俗講座》 わら草履を編もう!	■2月23日(日) 13:00~15:30/会議室 ■一般/20名/100円
2014 5 MAY.	《ワークショップ》 よ〜く見てみよう! 橋彦さんの絵。	■3月1日(土)①10:00~12:00 ②14:00~16:00/会議室 ■①高校生~一般 ②小中学生/各15名/要観覧料 ※要申込み(電話のみ)
	《アートセミナー》 「菅橋彦について(仮題)」	■3月8日(土) 14:00~15:30/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《歴史講座》 伯耆往来をあるく(白兔〜宝木)	■3月9日(日) 10:00~13:30/市内 ■一般/20名/無料 ※申込受付2月6日(木)~(電話のみ、先着順)
2014 6 JUN.	《ギャラリートーク》 菅橋彦展	■3月15日(土) 14:00~15:00/企画展会場 ■高校生~一般/定員なし/要観覧料
	《講演会》(講師 山形大学教授・坂井正人氏) ナスカの地上絵と古代アンデス文明	■3月16日(日) 14:00~15:30/講堂 ■一般/250名/無料
	《アートセミナー》 「知られざるプロダクトデザイナー 小島基」	■3月22日(土) 14:00~15:30/会議室 ■高校生~一般/定員なし/無料
2014 7 JUL.	《シンポジウム》 菅橋彦シンポジウム	■3月29日(土) 13:30~16:00/講堂 ■高校生~一般/250名/無料
	《公開研究会》 「県民と学ぶ最新の鳥取藩研究」II	■3月30日(日) 13:00~16:00/講堂 ■一般/250名/無料

※特に記載のないものは申込不要です。※講座によっては材料費などが必要な場合があります。詳しくはホームページなどでご確認ください。
※託児サービス・手話通訳・要約筆記にも対応いたします。希望される場合は3週間前までにご連絡ください。
※小学生以下は保護者同伴でご参加ください。※申し込み・お問い合わせは学芸課(0857-26-8044)または美術振興課(0857-26-8045)へ。

鳥取県立博物館ニュース No.16

平成25年(2013年)9月22日発行
編集・発行 鳥取県立博物館
住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
TEL 0857(26)8042(代)
FAX 0857(26)8041
URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>
E-mail hakubutsukan@pref.tottori.jp



JR鳥取駅からバスで

100円バス「くる梨」緑コース
①仁風閣・県立博物館下車すぐ
ルーフ麒麟獅子Aコース(土・日・祝日のみ)
④鳥取城跡下車すぐ
砂丘・湖山・賀露方面行
「西町」下車約400m
市内回り岩倉・中河原方面行
「わらべ館前」下車約600m



■JR鳥取駅からタクシーで約10分
■当館駐車場に1台駐車可能(なるべく公共交通機関をご利用ください)
■鳥取ICより約15分

MORRIX 株式会社 モリックスジャパン
鳥取市商栄田203-6
TEL 0857-23-3641

引越しは日通
0120-154022